

# 嶋満神社便り

平成二十六年六月号(第十二号)

発行 嶋満神社奉賛会

## 嶋満神社ゆかりの(?) 場所を訪ねて

綾部市中筋町には当社とよく似た名前の神社があります。その名も「島万神社」もしくは「島萬神社」：シマジンジャ、シママジンジャとも。当会会員さんに教えていただき、お参りしてきました。

大変立派なお社で、境内の遙か手前にはバス停と大きな一の鳥居があり、広い境内入口には二の鳥居、本殿の前に拝殿、別に社殿、他に招魂社、八幡社、稲荷社などもお祭りされています。こちらは延喜式に掲載される、堂々たる「式内社」です。

天平八年(七三二年)に疫病が流行った時に平癒祈願として勧請されたとか。今も病氣平癒の神様として崇敬されています。

秋の例祭に奉納される太刀振りや太鼓踊りは京都府の無形民俗文化財に登録されています。

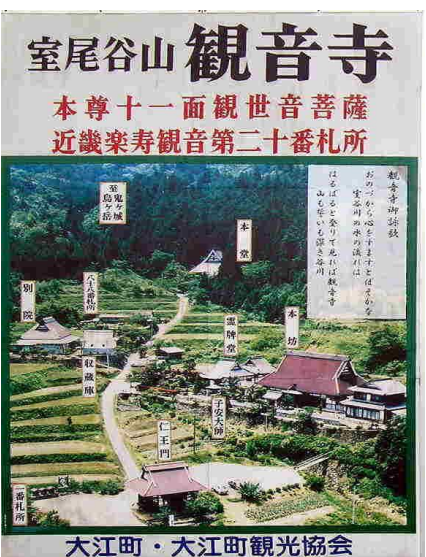
山懐に抱かれた静かな境内が秋の一日大いに賑わうことでしょう。

淵垣から線路を渡り、車で約三分ほどのところでは



さて、もう一か所は当奉賛会にとっては絶対にはずすことのできない場所、マストアイテムともいべきお寺さんです。

由良川筋の東岸沿いの道を福知山方面へさかのぼると見えてくる「鬼ヶ城」の看板。何やら怪しげなその山中の方向へ進むこと五分、深山幽谷たる景色の中、ひっそりとたたずむのは、あの「神名帳」で名高い室尾谷山観音寺です。



そう、我が嶋満神社が「正二位」として記載されている、元龜三年(一五七二年)書写の奥書のある、由緒ある

「丹後国内神名帳」が保存されている、あのお寺さんです。

(その写本は津田様宅に大切に保管されています)。



奥深い山の斜面の広い寺域には沢山の仏様を拝むことができます。

丹波と丹後の国境鳥ヶ岳、そして茨城童子が棲み、大江山鬼伝説にもつながる鬼ヶ城に抱かれた幽邃な空気に触れていると、永い歴史の中で我が嶋満神社の往時がしのばれるような、ゆったりとした気分になさしてくれます。

尚、反対の綾部側、中丹養護学校近くからも上がることができます。

このように各地の地元で大切に守りされている社寺をめぐるのも、足元の宝物を見直す意味でいいきっかけになるのではないのでしょうか。